

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

小口現金	普通預金	前渡金	未払地代
仕入	租税公課	支払地代	受取手形
買掛金	現金	売上	前受金
旅費交通費	前払地代	売掛金	当座預金
支払手形	通信費	発送費	雑費

- 谷商店(決算日は12月31日)は不動産業者から店舗の駐車場として利用するための土地を平成29年6月1日から賃借し、むこう1年分の賃借料¥180,000を普通預金口座から支払った。
なお、平成29年12月31日における決算整理仕訳は、適切に行われている。
- 谷商店は、上記1の賃借料につき、平成30年1月1日において必要な再振替仕訳を行った。
なお、平成29年12月31日における決算整理仕訳は、適切に行われている。
- 富岡販売は、用度係から平成29年8月分の小口現金の使用状況について次のように報告を受け、必要な金額を普通預金口座から補給した。
電車・路線バスの運賃 ¥13,200 販売商品の発送費 ¥12,600 茶菓子代 ¥6,300
なお、富岡販売は小口現金について定額資金前渡制度を採用しており、金額は¥35,000と設定している。
- 増田商事は、得意先多田販売に対して¥425,000で仕入れた商品とその仕入原価の1.2倍の販売価格で販売し、販売価格のうち¥240,000は以前に現金で受け取った手付金と相殺し、残額のうち半額は現金で受け取り、残りは掛とした。
- 篠田商店は、仕入先前野販売に対する買掛金¥500,000を、約束手形を振り出して支払ったが、誤って小切手を振り出して支払った旨の仕訳を行っていたため、これを訂正する。

第2問 (8点)

神水商店の次の仕入帳および売上帳の記録にもとづいて、A品について商品有高帳を作成し、締め切りなさい。なお、商品の払出単価の計算は移動平均法により行い、摘要欄は取引の概要を記入する。

仕 入 帳		
平成29年	摘 要	金 額
1 5	京塚商店 掛	
	A品 100個 @ ¥270	27,000
18	鷹辻製造 約手	
	A品 240個 @ ¥280	67,200
19	大江商事 掛	
	B品 180個 @ ¥420	75,600
25	島崎製造 現金	
	A品 120個 @ ¥285	34,200

売 上 帳		
平成29年	摘 要	金 額
1 9	東町販売 掛	
	A品 80個 @ ¥450	36,000
12	古城商店 当座	
	A品 40個 @ ¥460	18,400
21	黒髪商店 約手	
	B品 150個 @ ¥690	103,500
23	小峯物産 掛	
	A品 140個 @ ¥480	67,200
29	出水商事 現金	
	A品 100個 @ ¥480	48,000

第3問 (32点)

枚方商事の次の【平成29年7月中の取引】および答案用紙にもとづいて、答案用紙の合計残高試算表を完成させなさい。なお、当期は平成29年1月1日から平成29年12月31日までの会計期間である。

【平成29年7月中の取引】

1. 現金取引			2. 普通預金取引		
(1) 現金売上	¥	103,500	(1) 普通預金売上	¥	187,200
(2) 現金仕入	¥	78,400	(2) 普通預金仕入	¥	100,800
(3) 普通預金引出し	¥	308,800	(3) 普通預金預入れ	¥	353,700
(4) 普通預金預入れ	¥	353,700	(4) 普通預金引出し	¥	308,800
(5) 売掛金回収	¥	45,100	(5) 売掛金回収	¥	219,000
(6) 買掛金支払い	¥	32,000	(6) 買掛金支払い	¥	186,400
(7) 交通費支払い	¥	2,200	(7) 手付金受取り	¥	121,000
(8) 雑費支払い	¥	600	(8) 手付金支払い	¥	95,800
(9) 未収入金の回収	¥	40,000	(9) 源泉所得税納付	¥	5,900
			(10) 給料支払い	¥	69,600
			(源泉所得税¥5,700を差し引いた金額である)		
			(11) 店舗家賃支払い	¥	25,000
			(12) 水道光熱費支払い	¥	12,400
			(13) 未払金支払い	¥	26,000
3. 売上取引			4. 仕入取引		
(1) 現金売上	¥	103,500	(1) 現金仕入	¥	78,400
(2) 普通預金売上	¥	187,200	(2) 普通預金仕入	¥	100,800
(3) 掛売上	¥	297,800	(3) 掛仕入	¥	204,100
(4) 手付金売上	¥	148,000	(4) 手付金仕入	¥	92,000
5. その他の取引					
(1) 当期に発生した売掛金¥17,300が回収不能となった。					
(2) 備品¥150,000を購入し、代金は翌月末に支払うこととなった。					

第4問 (10点)

次の文の①から⑤までに当てはまる最も適切な語句を下記の【語群】から選び、ア～トの記号で答えなさい。

1. 金銭を借り入れる際に手形を振り出した場合のその手形は (①) 勘定で処理する。
2. 取得した建物を利用するために支払う改修工事費用は (②) 勘定で処理し、所有する建物について毎年支払う固定資産税は (③) 勘定で処理する。
3. 金銭債権の貸倒れに備えて設定する貸倒引当金勘定は (④) に該当する。
4. 決算において、当期純利益または当期純損失を計算するために、すべての収益および費用を損益勘定に集計するが、その集計するための仕訳は (⑤) 仕訳に該当する。

【語群】

ア 支払手形	イ 負債	ウ 開始	エ 訂正	オ 修繕費
カ 集合勘定	キ 決算振替	ク 評価勘定	ケ 純資産	コ 建物
サ 租税公課	シ 預り金	ス 手形借入金	セ 手形貸付金	ソ 決算整理
タ 照合勘定	チ 期中	ツ 受取手形	テ 資産	ト 締切り

第 5 問 (30 点)

小貫商店の次の [決算整理前残高試算表] および [未処理事項・決算整理事項] ならびに答案用紙にもとづき、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。なお、当期は平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日までの会計期間とし、金額の期間配分は月割りによる。

[決算整理前残高試算表]

借 方	勘定科目	貸 方
858,400	現 金	
	現金過不足	6,500
4,059,800	当 座 預 金	
?	受 取 手 形	
3,256,000	売 掛 金	
957,600	繰 越 商 品	
?	前 払 金	
1,500,000	貸 付 金	
50,000	仮 払 金	
3,000,000	建 物	
1,500,000	車 両 運 搬 具	
2,500,000	土 地	
	支 払 手 形	?
	買 掛 金	2,428,100
	前 受 金	937,000
	借 入 金	?
	預 り 金	8,700
	仮 受 金	100,000
	貸 倒 引 当 金	86,500
	建物減価償却累計額	?
	車両運搬具減価償却累計額	630,000
	資 本 金	?
	売 上	34,338,700
	受 取 利 息	?
28,404,200	仕 入	
3,888,500	給 料	
81,600	貸 倒 損 失	
142,800	水 道 光 熱 費	
97,200	旅 費 交 通 費	
?	通 信 費	
48,000	支 払 保 険 料	
354,800	租 税 公 課	
39,400	雑 費	
?	支 払 利 息	
?		?

[未処理事項・決算整理事項]

- 得意先から売掛金が当座預金口座に振り込まれていたが、未処理であった。
- 売上原価の算定を行う。
- 仮払金は、従業員への出張旅費の概算払いを処理したものである。なお、従業員は当期末までに出張から帰り、実際に要した旅費の額との差額を現金にて精算しているが、未処理であった。
- 現金過不足の原因について、現金による売上の計上もれおよび雑費の計上もれが判明したが、それ以外は判明しなかった。
- 売上債権について、期末残高の 2% に相当する貸倒引当金を差額補充法により繰り入れる。なお、貸倒損失には、前期に発生した売掛金の回収不能額が含まれている。
- 減価償却は次の条件で行う。
 建物 定額法 耐用年数 20 年 残存価額 10%
 車両運搬具 定額法 耐用年数 5 年 残存価額 ゼロ
 なお、車両運搬具のうち一部（平成 26 年 1 月取得）を平成 29 年 8 月 25 日に売却しているが、売却代金を仮受金で処理したのみである。
- 貸付金の内訳は、次のとおりであり、必要に応じて未収利息または前受利息を計上する。
 (1) A 商店に対するもの
 平成 28 年 8 月 1 日に貸付けており、毎年 10 月末、1 月末、4 月末および 7 月末に年 9% で計算した利息 3 か月分を後払いで受け取る。
 (2) B 商店に対するもの
 平成 29 年 6 月 1 日に貸付けており、毎年 6 月 1 日（貸付日を含む。）および 12 月 1 日に年 6% で計算した利息 6 か月分を前払いで受け取る。
- 借入金は、平成 28 年 2 月 1 日に銀行から借り入れたものである。なお、毎年 5 月末、9 月末および 1 月末に、年 4% で計算した利息 4 か月分を後払いで支払うため、未払利息の計上を行う。
- 支払保険料は建物の損害保険料であり、数年前から毎年 9 月 1 日に 1 年分を前払いで支払っている。
 なお、保険料は毎年同額であり、前払額を計上する。
- 給料の未払額および水道光熱費の未払額を、それぞれ計上する。